

常光寺々報

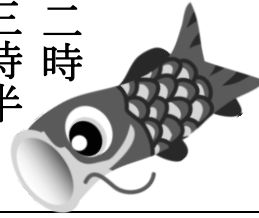
2024. 4

永代経法要

五月六日(月)休

朝十時〜十二時

昼一時半〜三時半



京都 願生寺 住職

講師 山本 泉茂 先生

「み教えに導かれて」

◆ お経本とお念珠をお持ちください。

◆ 昼食にお齋として炊き込みご飯をご用意しております。

大掃除 四月二十一日(日) 九時半〜

年に一度の本堂の大掃除をいたします。昼食にカレーを頂いて終了の予定です。どうぞお手伝いをお願いいたします。

ご講師の山本先生は今回初めてご出講いただきます。

昨年に坊守が、大阪の都呂須先生のお寺の報恩講へお参りさせていただいた折にご講師でいらしたことがご縁で、聴聞させていただく機会を得ました。

先生は在家のご出身ですが、お母様の影響で兄弟四人とも僧侶となられたそうです。ご自身も十六歳で得度され、二〇〇九年に発足された世界の門信徒との交流を支援する国際交流講社『響流』の講長をさせていただきます。

二〇一五年には京都府八幡に現在住職をされている願生寺を新寺建立されました。

どうぞ、皆さまもこの度のご縁を大切にされてお参り、ご聴聞いただきますようご案内申し上げます。

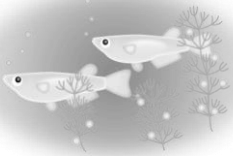
ご報告

◇ 能登半島地震への義援金募集を、お賽銭箱を募金箱として行いましたが、皆様のご協力により十七万六千六百四十二円が集まりました。全額本願寺を通して送金致しました。

ご協力ありがとうございました。

◇ 庫裡のリフォームは前回、「現在最終段階」と申し上げましたが、「業者選定の」が抜けておりました。まだまだ紆余曲折しております。

玄関の水槽に「楊貴妃」という種類のメダカをいただきました。かわいらしく泳ぐ姿を見せてくれています。



葬儀のQ&A

お通夜の意義

葬儀の前夜には、通夜のお勤めが行われます。通夜とは文字通り、近親者や親しい知人が、夜を通して、ご本尊前の遺体のそばに集い、亡き人を偲びつつ仏さまの救いを味わう法事です。ですから、お勤めが行われる時には参列者も僧侶(調声人)と一緒ににお勤めしていただきたいものです。

通夜のことを、昔は夜伽とも言いました。一つの布団に入って、本心で語り合うのが夜伽です。亡き人声なき声で語りかける人生最後のメッセージを心して聞き、送る方も一番伝えたいことを亡き人に語るためにあるのが夜伽であり、お通夜です。

浄土真宗本願寺派HPより

コロナ体制が始まって以降、『直葬』や『一日葬』といった様式での葬儀が増えているという話を耳にします。コロナ禍の中で、病気の蔓延を防ぐという意味で、通夜・葬儀を経ずして火葬にする葬儀形態を執らざるを得なかった事実があり報道もされたのですが、それで良いのだと思われるのは残念なことです。

多様性の時代ということで小さく簡易なお葬式や一日葬など、葬儀屋さんの手間を省いたような安価な様式の葬儀のCMなどが流れているのもその一因なのでしょう。

かつては「自分が死んでも葬儀は大きくしないでいい」と言い残した親の言葉を遠慮として受け止め、きちんと皆さんにお別れをしていたかどうかと精一杯に勤めていたものですが、今は「親の遺言ですから」と、

それを尊重されるご家族も増えてきました。また、葬儀で涙を流す方も少なくなってきました。寂しいことですが、どちらも時代の流れであり、仕方がないことなのかもしれません。

現代は多様性の時代と言われ様々な考え方がありますが、浄土真宗の通夜・葬儀とは、亡き人を通して自分もやがて往く世界、お浄土を感じさせていただく法縁です。

お浄土とは阿弥陀さまがすべての人びとを救いとるために用意してくださった究極の安住場所であり、お浄土に生まれることこそが浄土真宗の教えの根幹です。

その悲しみを機縁として、亡き人を偲びつつ仏さまの救いを味わう、『夜伽』であり、『お通夜』を精一杯にお勤めしてまいりたいものです。